

第11回日本レーザー医学会総会



会長：金沢大学・泌尿器科 久住治男 教授

会頭である久住教授は当教室主催の大会に向けて、学会準備状況を巻頭言で詳細に報告されている。当時世界に先駆けて金蒸気レーザー装置を英国オックスフォード大学より輸入、膀胱癌HpD-PDT法に導入された。本体は628nmで高出力のパルス発振型で、膀胱内視鏡に導入し膀胱筋層浸潤癌までの治療を可能とし熱を伴うため、30年後の近年の光熱療法初のデバイスだったかも知れない。

大会は渥美会長講演、2特別講演、2招待講演と4シンポジウムおよび25セッション一般演題数141をA, B, Cの3会場にて2日間で行われた。特別講演にはレーザーの大家久保教授とバイオフィotonの稲葉教授が、招待講演にはアムステルダムからDr. Martin JC van GemertとオスロからはDr. Stern Sanderがそれぞれレーザーによる血管形成術と局所前立腺がんレーザー治療について話された。シンポジウムではレーザーによる結石破砕とレーザー治療におけるハイパーサーミアがユニークであった。

三好憲雄先生より
の文章(原文のまま)

